

[<<前のページへもどる](#)

2010年度 東京都中学校駅伝競走大会

総合12位 昨年から順位を62上げる大躍進
桐朋中学最高記録更新！



「駅伝で全国を目指さないか」

2010年6月、中長メンバーに言ったこの一言から、彼らの挑戦は始まった。
昨年、4年ぶりに出場して74位。

「参加できただけでもよし」

と思う反面、

「うちのレベルはこんなものなのか」

という憤りも感じた。個々の力は、全国レベルとまではいかないがかなり高い。それを引き出してあげれば必ず上位にくる。そう信じていた。

それから5ヶ月間、中長メンバー全員が駅伝に向けて練習した。最初は長い距離に慣れることに重きを置き、3ヶ月間じっくり走り込んだ。10月中旬の選考会を経て、選手6人と補欠3人を選出。その後、中長メンバー全員で試走、練習中のタスキ着用、連日のタスキ練習。今まで以上に駅伝を意識させた。

そして、駅伝当日。天候晴れ。風はほとんどなし。ときおり陽が差す絶好のコンディションとなった。

「絶対に諦めない」

タスキには、選手だけでなく、サポート、応援の人、みんなの気持ちが込められている。だから、最後まで諦めてはいけない。タスキを受け取ったら一つでも順位を上げて次の人に渡す。レース直前、選手にそのようなことを話した。そして、期待と不安を抱きながらスタートを待つ。

11時30分レーススタート。始まってしまえば応援以外に何もできない。100チーム以上が参加しているので、予想通り中継所は大混雑していた。ときに選手を見失うことも。ハラハラしつつ選手を待つ。そして、アンカーが帰ってくる。

結果は1時間1分15秒で総合12位。昨年から順位を62上げた。結果だけみると大躍進である。しかし、選手はみな厳しい顔つきでうつむいていた。1年前とは明らかに違う雰囲気だった。

「負けて悔しい」

大躍進したことよりも、勝てなかったこと、まだ上に11チームいることをみんなが本当に悔やんだ。レースが終わって、みんなの気持ちが一つになったような気がした。

5ヶ月を振り返ってみると、全国を目指すという目標に誰も反対しなかった。そして、苦しい練習にみんなが耐えてくれた。でも、何かが足りない。なかなか表現しにくいけど、張り詰めたものというか、近寄りがたい雰囲気、直前まで感じられなかった。その足りなかったものがレース後によく感じられた。

勝つためにはまだまだ努力しなければならない。しかし、決して不可能ではない。今回の挑戦は無駄ではなかったことを実感した。

レースが終わり、彼らを前に新たな決意を述べた。

「来年こそ必ず優勝する。そのためにも今の気持ちを決して忘れてはいけない」

桐朋中学駅伝部の新たな挑戦が始まる。

短距離メンバーの応援は選手にとっても力になりました。本当にありがとうございました。また、応援に駆け付けていただいた保護者の皆さま、ありがとうございました。来春のトラックレース、そして1年後の駅伝に向けて頑張っていきますので、今後ともご声援のほどよろしくお願いいたします。

桐朋中学駅伝部監督 宮下昌志